

もったいない地球財布は
再利用と地産地消を
すすめます



NEWS!

2018. 3月号

[発行] NPO 法人グリーンコンシューマー大阪ネットワーク ●〒553-0006 大阪市福島区吉野 4-17-11 エコロジーラボ内
●郵便振替 00920-8-154437 ●年会費 1 口 2000 円(個人 1 口以上、学生半口以上、団体 3 口以上、賛助会員(会社)5 口以上)
●TEL&FAX:06-6462-2775 ●携帯:090-8989-5182(代表山口) ●http://www.geocities.jp/gconosaka/ ●gcon_osaka@yahoo.co.jp

資源循環★生産者の挑戦&消費者の実践 <生産者編>

ボトル・トレー to トレーの **もういっぺん**

(株)エフピコ中部工場見学

2017 年 10 月 19 日、回収から分別、そしてトレー製造を手掛ける株式会社エフピコ中部工場(岐阜県)の見学会を、環境情報ステーションピコと当会とで企画運営をし、大阪府民環境会議(OPEN)との共催で ECO もんツアーとして実施しました。参加者は、事業者関係者を含め 15 名でした。

説明によると、2017 年 3 月までに回収された発泡スチロール製トレーは約 331 億 1,575 万枚、透明容器は約 12 億 0,250 万枚、PET ボトルは約 42 億 4,874 万本。エフピコ全国取扱量で、食品トレー容器の原材料である原油 5 億 2,200 万リットル(200 リットル入りドラム缶で約 261 万本)が節約された計算となります。

また、もしこれだけの使用済みトレーや透明容器、PET ボトルがゴミとして家庭から排出されたとすると、ゴミ収集用パッカー車が約 251 万台必要となり、その費用は概算で 627 億円にもなります。エフピコ方式のリサイクルは資源を有効利用するとともに、ゴミ処理にとまなう費用(社会的コスト)も軽減し、CO₂ 排出量も削減されるとの説明がありました。

課題: プラスチック原料の国内生産量 1500 万トン超、エフピコのような回収・製造の一貫工場が他にも期待したいが、資本力と国際情勢をつかむアンテナないと踏み切れないのでは。古紙と同じく国際市場の変動で相場が決まり、グローバル経済の中、急成長を遂げる中国やインドなどの経済動向も見ていかいとイケない。しかし、化石燃料の限界値、地球温暖化対策の国際ルールを考えると、国内生産が国内需要と見合う政策が必要だ。一度使用したプラスチック容器がリユースすることを考えるときでは、限られた資源、リユースが当たり前という消費者の意識を変えないと経済の流れは変わらない。製造者にとって企業の存続と環境保全は同一線上にあるのと思いました。



各地から搬入された圧縮したペットボトルの塊



選別、洗浄され、
高速管で、製造
工場に送られ、
フレークに粉碎後
製品化される。

